

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第159号

ななえ古写真物語 VOL. 159

変わる時代

大中山公民館新築工事

昭和44年

大中山地区



ななえでは、明治20年ころから青年の教育をはかるため、各部落で「夜学会」なるものが開かれたと『七飯町史』には記されている。これは主に、働き手となる若者たちが、農閑期である冬期間に学ぶもので、17～40歳の男子のみで構成されていた。大中山地区では、読書、珠算、綴方（書簡文）を、次第に漢文や日本外史も取り入れ、大正元年からは教育勅語や戊申詔書も指導し、多い時には40名ほど集まったが、余り成績は振るわなかったという。しかし、若者同士が農業や地域のあり方などについて、語り合う機会は増えたと思われる。

こういった社会教育活動が明文化されたのは、昭和24年の社会教育法の公布であるが、その実践のための施設として公民館が各地に設けられるようになった。ななえでも昭和26年から活動を開始したと『七飯町史』に記され、昭和38年8月からは地域ごとに公民館本館・分館、公民館協力員を置いて地域の实情にそった推進活動がなされ、昭和43年には大沼公民館、昭和44年には大中山公民館、昭和45年には七飯公民館（旧 七飯地域センター）が立て続けに完成し、公民館活動はさらに活発化した。

上の写真は、大中山公民館の新築工事の様子である。これまで学校や個人宅などで取り組まれていた社会教育活動は、こういった拠点を得たことにより、多種多様なサークル活動が行われるようになり、さらなる文化活動の高揚へつながった。

場所は現在の大中山小学校の敷地内で、平成6年に大中山町民センター（コモン）が完成オープンしたため、活動拠点は移ったが、建物自体は最近まで残っていたので、記憶に新しい人もいだろう。しかし近年、大中山小学校や大中山出張所と学童保育施設の複合施設が建設されたことで、旧公民館は取り壊され、現在は駐車場となった。

少し前の写真とはいえ、信号機のデザイン、工事現場の覆い、周囲の建物など、時代の違いを感じる。公民館活動も、かつてのように集団で学び合うスタイルから、個人で活動・発信する人が多くなった。実際、公民館におけるサークル活動もかつてほどの賑いはない。確実に時代が変わったように感じる。それが良いか悪いかは問題ではなく、そうやって時代は変化するのだろうとな、最近しみじみ思う。

土器の棚を清掃しました。

来館者が帰ったあとのひっそりとした博物館。職員がガラスクリーナーときれいな雑巾を持って向かって行くのは、常設展示室の土器や石器が展示してある二つのガラスケースの前です。毎年この時期に行うのですが、一斉に棚の土器を出して、同じ場所に戻すのは、実はかなり大変な作業なのです。日々の展示室の巡回をしながら、埃がたまっていく棚を横目に「そろそろ掃除の時期かなあ」と職員は春を感じるようになります。さてこの作業の難しさは、完形の土器や土製品から補修箇所の多い土器と、大きさも形もさまざまなので、慣れないと土器を運ぶ手に、緊張感が走ります。ケースの中に入ってガラスを拭く人、土器のほこりを掃う人、棚を一枚一枚拭く人。役割分担をして元の状態に戻すまでの黙々とした作業は、夜の深い時間へ吸われていきます。黒い壁面の棚に居場所を美しく整えられた土器や石器。興味のあるお客様が細部までじっくりとご覧頂けるようにと、歴史館ではこういった環境づくりも大切にしています。



4月の予定

1	木
2	金
3	土
4	日
5	月
6	火
7	水
8	木
9	金
10	土
11	日
12	月
13	火
14	水
15	木
16	金
17	土
18	日
19	月
20	火 ピチャリ160号発行
21	水
22	木
23	金
24	土 ジュニア探検クラブ
25	日
26	月
27	火
28	水
29	木 昭和の日
30	金

※ 4月の休館日はありません

『ななえの歴史と伝説』

歴史館で販売している町史読本『ななえの歴史と伝説』をご存知でしょうか。

この中の「七飯町の伝説」では、古くから町内に伝わる伝説が紹介されています。「蒜沢の黄金のかめ」や「駒ヶ岳の神馬」「血の出る一本ぐり」などのお話を紹介しています。学習室では、入り口右手にこれらを挿絵と共に展示していますので、自由に閲覧することができます。郷土の歴史に興味をもつ入り口として、是非ご覧下さい。



春の訪れ

林の中で見つけた
顔を覗かせた
ふかふかの雄株
柔らかな雌株
硬い葉は北国と
いいです。



編集後記 ～tawagoto～

当館には、「七飯町歴史館分室」という、考古資料を納めたプレハブがあるのだが、気温が緩んだこともあり、屋根に厚く積もった雪が解け、雨漏りとなって内部が水浸しとなった。基本的な役割としては保管庫なので、暖かくなるまで放置しても良いのだが、そういう訳にもいかず、屋根に上り雪（氷）おろし作業となった。屋根に積もった枯葉も一因だとわかって良かったのだが、久々の肉体労働に、体の悲鳴が止まらない。（やまだひさし）

～ピチャリ～
Pichari

第159号

令和3年3月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp